イセエビ

生態的特徴等

【生態】

茨城県以南の太平洋側及び長崎県以南の九州西岸に分布する。

夏に沿岸の岩礁域でふ化したフィロゾーマ幼生は、ふ化後２～３か月は沿岸に留まり、その後黒潮の南方沖合域に運ばれ、１年近い浮遊生活の後にプエルルス幼生に変態して沿岸域へ移動し、岩礁域に着底して稚エビに変態する。寿命は 20 歳以上。

貝類や甲殻類を主に捕食する。成長は雄の方が速く、２歳で雄は頭胸甲長※45mm、雌は 42.3mm、３歳で雄は 62.4mm、雌は 56.2mm、４歳で雄は 74.1mm、雌は 64.7mm 程度となる（図 1）。

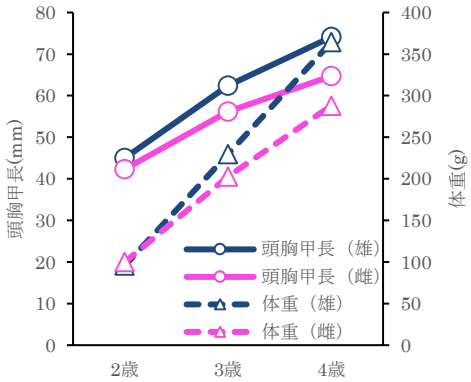

図１　イセエビの成長

※頭胸甲長：眼の後部の窪みから頭胸甲の後端までの長さ

【漁法と盛期】

茨城県では主に固定式刺網（建網）で漁獲され、主な漁期は夏季である。

【利用】

高級食材として、主に姿づくり（刺身）や焼物として利用されている。体重 600g 以上のイセエビは「常陸乃国いせ海老」としてブランド化されている。

資源水準は高位、動向は増加傾向

（漁獲量）漁獲量は、H12 年までは 10 ㌧以下、H13 年から H30 年は概ね 10～20 ㌧であったが、R１年以降急増し、R１年は 24 ㌧、R２年は 30 ㌧、R３年は 58 ㌧の漁獲となった（図２）。

（水準と動向）資源水準は、県内で最も漁獲量が多い固定式刺網（建網）の漁獲量から計算した CPUE（kg/隻・日）から判断した。水準は「高位」、動向は直近５年間の CPUE の傾向から「増加」と判断した（図 3）。

水　準
◎
動　向
↗

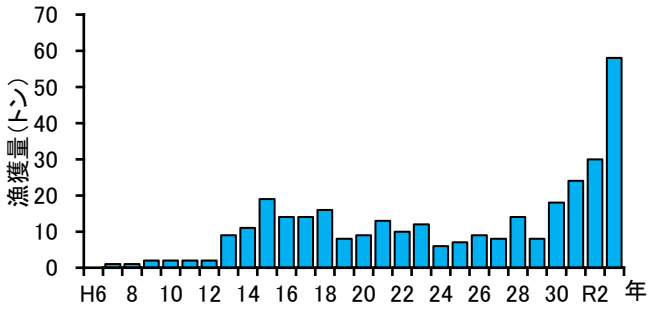

図２　茨城県のイセエビ漁獲量（農統）

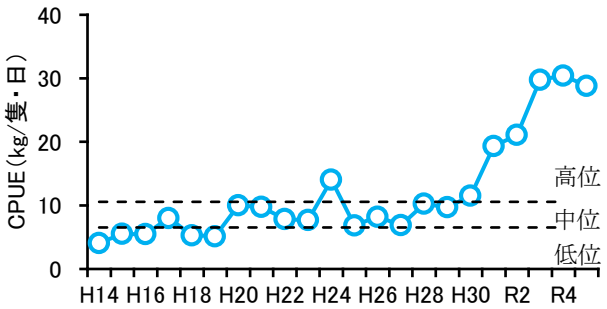

図３　茨城県のイセエビ CPUE
（水試システム、固定式刺網、属地）

【全国の漁獲動向】

・千葉県が漁獲量１位、２位は三重県、３位は和歌山県。（R３農統）

評価期間：令和５年１月～令和５年 12 月　更新日：令和６年３月 27 日

引用：水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター、千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産総合センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課、高知県水産試験場、大分県農林水産研究指導センター水産研究部、宮崎県水産試験場（2021）イセエビ．令和３（2021）年度資源評価調査報告書、水産庁・水産研究・教育機構、東京 5pp、https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/report_2021_25.pdf